

2016 Suzuka 8 hours FIM Endurance World Championship

Media Information ●2016年8月4日発行

Coca-Cola zero.
2016
Suzuka 8 hours

2016 FIM世界耐久選手権シリーズ第3戦
“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第39回大会
三重県 鈴鹿サーキット(1周=5.821km)
予選：16番手(タイム:2分09秒905)
決勝：10位
天候：7月28日(木)晴れ 路面:ドライ
7月29日(金)晴れ 路面:ドライ
7月30日(土)薄曇り 路面:ドライ
7月31日(日)快晴 路面:ドライ
観客動員数(4日間合計)：124,000人

au & テルル・Kohara RT



2017年の鈴鹿8耐につながる10位完走

2016年の“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレースが三重県・鈴鹿サーキットで開催された。今年は、チーム加入2年目となる秋吉耕佑を中心にワールドスーパースポーツに日本ライダーで、唯一フル参戦している大久保光、そして世界耐久選手権での経験が豊富なオージーライダー、ダミアン・カドリンという布陣で au & テルル・Kohara RTは臨んだ。

事前テストから秋吉を中心に大久保、ダミアンも参加し、マシンのセットアップ、タイヤチョイスは着実にいい方向に進んでいた。チームも昨年、一昨年の経験を生かし、早い段階から鈴鹿8耐に向けて動いており例年に比べても順調に準備は整いつつあった。



しかし、思わぬ所で落とし穴があった。今年からライトが2灯になり、その準備はギリギリ間に合っていたが、木曜日午後に始まった公式練習で走らせてみると問題が明らかになる。この問題を解決するために時間がかかってしまい、スケジュールは後手後手になってしまう。この影響で金曜日の公式予選に当初は木曜日に行うことをやらなければならなかつた。そんな中でも秋吉は着実にチームベストを出し、決勝に向けたタイヤチョイスも行っていた。タイムは不本意なものであり、予選16番手とTOP10トライアルへの進出を逃してしまったがマシンの仕上がりは



悪くなく、3人でコンスタントに走ることを目標に置いていた。

今年のレースウィークの天候は、安定しており、例年よりは暑さは厳しくなかったが、日に日に気温は上がり決勝日が一番暑い一日となっていた。その朝のウォームアップ走行では、ライトにトラブルが発生したが、グリッドにつくまでに問題を解決。この辺りは、決勝にトラブルが出なくてよかったと言える。



予定通り11時30分にライダーがマシンに一斉に駆け寄るル・マン式スタートで始まった。スタートライダーの秋吉は、マシンにまたがるがエンジンがなかなかかからず大きく出遅れてしまう。それでもオープニングラップでかなりの数をかわし22番手でホームストレートに戻ってくる。そこからは周回毎にポジションを上げ、11周目には10番手まで浮上。さらに前を行くライダーを追い、19周目にパスし、9番手となると、最初のピット作業を待つだけだった。素早いピット作業で秋吉から大久保にかわりコースに戻ると、大久保も2分12秒辺りというペースで周回。その後のカドリンは、一番暑い時間帯をこなしていたが、この辺りから燃料系のトラブルが発生てしまい、思う

ようにペースを上げられない。だが秋吉は、そんな状況の中でもハイペースを維持。大久保もユーズドタイヤでの走行もあったが、コンスタントに走り、カドリンも、秋吉からの情報を聞き、夕暮れのコースを攻めて行った。そして最後のステントは、エースの秋吉が受け持ち212周を走り切り10位でチェック・フラッグを受けたのだった。



秋吉 耕佑 コメント

「細かいトラブルはありましたが、チームメイトの大久保選手、カドリン選手もコンスタントに走ってくれましたし、チームもすばらしいピットワークを見せてくれました。昨年に比べて、着実に前進しています。今年の経験を生かして、来年は、さらに上位を狙って行けると思います。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました」

大久保 光 コメント

「夢の舞台でした鈴鹿8耐に参戦することができ、とてもいい経験になりました。特に秋吉選手、ダミアン選手と一緒に走ることができたことは、レース人生の中でも大きなことになりました。初となる1000ccでのレースでしたが、秋吉選手がいいバイクに仕上げてくれていたので、すごく楽しく走ることができました。この経験をWSS後半戦に生かして行きたいと思っています。中込社長、小原監督を始め、スポンサー、ファンの皆さん、本当にありがとうございました」

ダミアン・カドリン コメント

「まずは、鈴鹿8耐に参戦するチャンスをいただけたことを au & テルル・Kohara RTに感謝します。事前テストからチームに合流し、すごく親身になって助けてくれましたし、ボクの意見を尊重してくれました。レース結果は満足行くものではなかったと思いますが、ミスなく現状ベストで走り切ったことは、大きな収穫でした。このメンバーならば、もっと上位を狙えると思います。また来年も一緒に走ることができれば、うれしいですね」

小原 齊 監督 コメント

「昨年、一昨年とトラブルに見舞われていたので、今年は早くから鈴鹿8耐に向けて動き出していました。何位になるとかではなく、トラブルを出さずに持っている力を出し切ることを念頭にしていましたが、ウイークに入って、またしてもトラブルがあり、その対応に追われた部分がありました。決勝では大きなトラブルもなく完走できましたが、上位を狙う難しさを改めて痛感させられました」



au & テルル・Kohara RT

〒336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田607-1
TEL.048-878-7020 FAX.048-878-5688